

令和7年度 岩国市立中洋小学校 学校評価書

校長(青山 武司)

1 学校教育目標							
<p>教育目標……【地域を愛し、地域からも愛される児童の育成】 「自分」を愛し、そして自分たちが学ぶ「学校」を愛し、さらには自分たちが育ててくれた「地域」を愛する。そして地域からも愛される子供を育てていくという願いから、瀬中学校区の3校で共通の学校教育目標を掲げた。9年間をととして地域を愛し、地域からも愛される児童を育てていく。</p> <p>中・長期目標……【「美しい学校」の創造(美しい環境で美しく心を育てる。)】 (1)自らのためにと特別支援教育の大切さを意識した取り組みの充実 (2)美しい環境の整備(校舎内外・花壇・教室・掲示物・職員室・特別教室 等)</p>							
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)							
<ul style="list-style-type: none"> ・若手教員が増える状況の中、ベテラン教員の指導法を学びながら、学力向上に向けて、学習環境の基礎となる学級経営の充実を図り、誰一人取り残すことなく安心して学べる環境作りを進めていきたい。 ・基礎基本の定着については、学習規律の徹底や時間の確保、外部講師の招聘等により教職員の授業改善や授業力向上に繋がっている。引き続き、iPadなどのICT機器の学習における効果的な活用研修等を進め、さらなる授業改善、授業力向上を進めていきたい。 ・特別に配慮を必要とする児童も多く在籍しているため、特別支援教育を重視した生徒指導を推進し、発達支持的生徒指導の充実を図りながら、安心安全に過ごすことができる環境作りを進めていきたい。 ・地域連携活動が充実しているため、効果的に活用しながら、児童の学習や体験の充実を図ってきたい。 ・小中一貫教育においては、令和7年度から2年間の市指定「小中一貫教育に係る確かな学力推進事業」に取り組み、教職員の意識を高め15歳の春を意図した教育の充実を図ってきたい。 ・教職員一人一人が、キャリアに応じた研修に参加したり、教育実践に努めている。中堅教員資質向上研修等も活用しながら、研修の充実と組織力の向上を推進してきたい。 							
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題							
<p>1「安心・安全な学校」：凡事徹底・特別な教育的ニーズの理解・発達支持的生徒指導の充実 2「豊かな人間性を育てる学校」：人権教育・道徳教育・インクルーシブ教育システムの推進 3「組織的運営を推進する学校」：コミュニティ・スクールを基盤とし、地域との協働実践 ○教職員の危機管理体制の充実(生徒指導・アレルギーマネジメント・熱中症対策) ○危機管理・備前保持に関する研修の充実(未然防止、早期発見、早期対応) ○教職員の働き方改革・業務改善の推進(中洋小学校でよかった) ・目的と手段の理解、機能的な環境の整備(ICT活用、行事の見直し)</p>							
4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	取組状況および成果・課題	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教育課程・学習指導	基礎基本となる学力の向上	・確かな学力の向上を図るために、基礎基本の定着を図る授業づくり・ICTの効果的な活用に取り組む	児童アンケート・保護者アンケート⑨の「授業は楽しく分かりやすい」の肯定的な回答の割合 90%以上 4 80%以上90%未満 3 70%以上80%未満 2 70%未満 1	・児童の肯定的な回答率は、90%以上あり、楽しく分かりやすい授業が進められている。保護者の肯定的な回答率も90%近くあるが、よく分からないという回答もある。参観日等の積極的な案内や授業参観しやすい取り組みも必要である。 ・放課後のミニ研修(10分)での模擬授業による指導技術力向上にも取り組み、児童の学力向上をめざした授業改善に取り組むことが必要である。	○全学年でやまぐち学習支援プログラムの学習プリントを活用することができている。 ○ICT機器と板書、学習プリント等の利点を生かしながら、分かりやすい授業をめざすことができている。 ○めあてや見通しを意図した授業は定着している。振り返りの時間と内容も少しずつ改善が見られるが、今後の課題でもある。	・基礎基本は定着していると感じる。(我が子の様子から)計算も速くできているようになった。引き続き指導をお願いしたい。 ・たたくや教室での指導は、直接学力向上とはならないかもしれないが、学習に対するモチベーションが上がる。 ・ニコスタの取り組みが良い。	A
	校内研修の充実	・「岩国市小中一貫教育に係る確かな学力推進事業」により授業力向上研修の充実を図る。 ・校内研修の充実を図るために、外部講師を招聘する。	年間の授業研究と評価の回数 年間10回以上 4 年間 8回以上10回未満 3 年間 6回以上8回未満 2 年間 6回未満 1	・学校訪問等では、全員が授業公開を行い、授業改善に努めた。 ・全クラスほぼ毎日、タブレットを活用した。放課後も教職員間で効果的な活用方法やアプリの活用などの研修にも取り組んだ。	○校内研修15回、小中一貫に係る合同研修会2回行い、中間発表会を行った。 ○瀬中学校区で岩国市教育委員会指定「小中一貫教育に係る確かな学力推進事業」の研究を生かし「表現力の向上」に視点をあて、授業改善に取り組んでいる。 ○瀬中学校区での互見授業の回数を増やし、授業改善へとつなげた。		
生徒指導	基本的な生活習慣の定着	・「元氣マイルカード」を活用した現状把握と指導の重点化に取り組む。 ・定着を図る。	元氣マイルカード9項目中の肯定的な回答の割合 80%以上 4 70%以上80%未満 3 60%以上70%未満 2 50%以上60%未満 1	・「元氣マイルカード」により、早寝早起き朝ごはん等の基本的な生活習慣について、毎学期確認を行い、家庭での定着を図ることができた。 ・メディアコントロールについては、中学校区で実施日を統一して取り組むことができた。	○元氣マイルカード(2月)でできた割合81.29% ○基本的な生活習慣は身に付いている児童は多い。 ○放課時間には、課題がある。 ○メディアの活用については、引き続き指導していく必要がある。(使用時間・モラル)	・叱る指導による統制を図るより、促す指導の方がうまくいくと思う。児童が反発する指導ではなく、納得する指導を進めて欲しい。 ・引き続き発達支持的な教育を進めて欲しい。	A
	発達支持的な生徒指導の推進	・教育相談の充実により、児童一人ひとりの困り感の把握に対応に努める。 ・「美しい心と笑顔を自覚して、中洋小5つのあ」(あいさつ、あんぜん、あじしまつ、ありがたう、あたたかい心)の取組の徹底を図る。 ・地域と連携し、気持ちのよい「あいさつ」の徹底を図る。	児童アンケート①～⑤⑧⑩の評価割合の平均 90%以上 4 80%以上90%未満 3 70%以上80%未満 2 70%未満 1	・生活アンケートを毎週実施し、児童間のトラブルやいじめには、組織で早期対応に取り組んでいる。 ・中学生も学校に来て一緒に、地域一斉あいさつ運動に取り組んだ。 ・3校合同派し訓練を実施した。 ・警察や交通安全ボランティア協力のもと、交通安全教室を実施した。(4年生、新入生) ・不登校傾向の児童及び保護者に対する支援について、青少年課の指導を受けながら進めた。 ・下校後の児童の自転車の乗り方、ヘルメット着用について引き続き指導が必要である。 ・公園等での過ごし方や遊び方の指導が必要である。	○評価割合の平均は88.99%(2回の平均) ○90%以上の児童が「先生達は困ったときにすぐに話を聞いてくれる」と回答。100%をめざして引き続き児童に寄り添った対応を行っていた。 ○94%(2回の平均)の児童が友達と仲良くできたこと回答。また、95%の児童が「ありがたう」と答えたと回答。引き続き拍手を思いやる気持ちを育てていきたい。	・危険予知トレーニングなども取り入れ、安全指導を進めて欲しい。	A
家庭・地域社会との連携	地域とともにある学校づくりの推進	・みんNa元氣Daネット協議会をC/Sの取組を充実させる。 ・保護者・地域へ積極的に情報発信を行う。 ・児童の地域貢献への取組の充実を図る。	児童保護者アンケート⑩の評価割合の平均 90%以上 4 80%以上90%未満 3 70%以上80%未満 2 70%未満 1	・「美しい学校」の創造が、学校運営協議会や保護者とも共有でき、連携した児童の育成が推進できた。 ・地域の方の学習支援や環境整備が増加した。 ・学生よりや学校より、学校情報誌「中洋の風」の発行により、教育活動や児童の様子について情報発信することが出来た。	○地域連携担当教員から児童に、コミュニティ・スクールの仕組みや地域の方々の思いについて考える時間も取ることが出来た。 ○夏季休業中の登校日に、6年生と学校運営協議会委員、教職員で「美しい学校」について協議ができた。 ○児童が地域の方への感謝の気持ちをもち、ふれあい活動等に参加できている。	・「美しい学校」という目標が分かりやすい。目に見える形で進んでおり、成果も出ている。 ・「あいさつ運動」は、中学生と一緒に取り組まれているようにへんよい。	A
	異校種間連携の充実	・幼保小の連携 ・小中の連携によるなめらかな接続 ・岩国市キャリア教育研究事業の推進	年間の相互訪問の回数 10回以上 4 8回以上10回未満 3 6回以上 8回未満 2 6回未満 1	・岩国市指定「小中一貫教育に係る確かな学力推進事業」の取り組みを通して、さらなる連携ができた。 ・児童生徒地域住民保護者の熱意に参加できた。 ・瀬小卒業生による保育授業や瀬中学校教員による英語科の前期授業を実施した。 ・3校長会を毎月実施した。	○中学校区3校の研修主任を中心に、岩国市指定「小中一貫教育に係る確かな学力推進事業」に取り組み、連携教育による成果があらわれた。 ○幼保との連携充実に向けて、取り組むことが課題である。		
人材育成・業務改善	キャリアステージに応じた教師力の向上	・キャリアアップのための研修会に参加する。	研修出張 一人あたりの回数 5回以上 4 4回以上 3 2回以上 2 1回 1	・中堅教員等資質向上研修や2年次3年次のフォローアップ研修も計画的に実施された。若手教員への教員が指導やアドバイスを行う事で教員もよい研修の機会となった。 ・研修主任を中心に若手教員の指導課題に沿った研修にも取り組み、授業力向上に成果が出たと感じる。	○市指定の研修に係る予定で、県外の学校の研究会へ参加できた。今後も、教員としての視野を広めるためにも、県外の学校の研修会へも参加出来るようにしたい。(時間・旅費が課題)	・16年生を送る会にも素晴らしい会であった。 ・1年生の成長が素晴らしい。 ・先生方の日々の指導に感謝。 ・引き続き業務改善を進めて欲しい。	B
	業務改善の推進	・起案文書等のデータ管理により業務改善を図る。 ・授業等でタブレットを有効に活用する。 ・業務時間を把握し、長時間労働の改善と適正な健康管理に努める。	超過勤務時間 月平均45H超 なし 4 月平均45H超が5人以下 3 月平均45H超が8人以下 2 月平均45H超が10人以上 1	・業務支援員の配置により、業務作業の軽減が図られている。 ・職員会議等はほぼペーパーレスで行う事が出来ている。 ・勤務時間外の留守番電話も定着している。 ・出勤時間外のICTによる管理はできている。 ・不登校傾向児童への連絡方法が課題である。	○業務支援員が配置され、印刷、教材作成、行事の準備等の業務を行ってもらうことができ、業務改善に成果がでてきている。 ○教職員間で気軽に相談できる雰囲気があり、全児童を全教職員で教育しようとする意識が高い。		
6 学校評価総括(取組の成果と課題)							
<p>・特別支援教育の視点を今年度の重点取り組み事項にも掲げ、校内コーディネーターと生徒指導主任を中心に発達支持的な生徒指導を意図して取り組んだ。配慮を必要とする児童について、保護者と連携しながら、通級指導教室へ入級させるなどの成果もあり、落ち着いた学校生活を過ごすことが出来る児童が増えた。また、生徒指導上の問題についても、早期に生徒指導主任やベテラン教員に相談しながら、適切な対応ができた。 ・専科員が6年生と8年生の課に入ること、担任はTTや個別の対応ができた。児童の学習意欲の向上への成果が見られた。また、担任の授業改善にも成果が見られた。 ・地域連携担当教員が、本校のコミュニティ・スクールについて、児童にプレゼンして説明したことにより、地域に対する児童や教職員の意識が高まった。</p>							
7 次年度への改善策							
<ul style="list-style-type: none"> ・「美しい学校」を学校運営の柱として、学校・家庭・地域が協働して児童の育成に取り組むことができるようにする。 ・学力向上については、4・5・6年生の学び直しの時間(ニコスタ)を年間計画に位置づけて、全教職員で対応することができるようになる。 ・目的(何のために)を大切にしながら取り組むことにより、教職員のやりがいや自己有用感が高まる職場環境を整える。 							